

# 中学生期のスポーツ活動を考える座談会報告

令和3年3月10日

去る令和3年2月18日(金)に中学生期のスポーツ活動座談会を開催いたしました。この座談会は、同年1月26日の中学生期のスポーツ活動講演会を受けて開催したものです。

テーマ 学校における部活動経営はどうあったらよいか  
～学校として、単位部活動として、現在の取り組みの実態や課題とこれから～

## 1 参加者

- ・清水紀宏先生(筑波大学)
- ・飯伊市町村教委
- ・下伊那中体連役員
- ・下伊那中体連専門委員長
- ・県スポーツ課
- ・飯田事務所
- ・中学校職員(希望者)

講演会(1/26)後のアンケートを整理し、内容ごと分類しました。座談会のテーマはこれを反映して設定しました。

指導法、指導内容、部活動経営に係ること

- ・部活動の在り方
- ・生涯スポーツをめざして
- ・自主的、自発的、自治的な活動
- ・スポーツの楽しさ
- ・多様な志向への対応

スポーツ環境に係ること

- ・地域連携
- ・地域移行
- ・環境づくり ・指導者不足
- ・多様性への対応
- ・少子化、山間地への対応

中学校体育連盟に係ること

保護者・地域理解に係ること  
働き方改革に係るもの

## 2 概要 話題となったこと

### (1) 部活動経営では

部員数の減少により「単独チームの編成が困難」「合同チームの編成に苦慮」している

- ・生徒の志向性も様々。競技性が強い傾向にあるため、加入者の限定や初心者への入部の選別が発生している。
- ・様々な目的や複数種目のニーズはある。競技力向上に重きをおくと、1つの種目に偏ってしまう。
- ・シーズン制への移行の前に、競技を志向する子とそうでない子が運動できる状況をつくるのが先だ。
- ・下伊那の現状からすれば、地域によっては学校がスポーツ環境の提供の場となっている。
- ・多くの生徒が参加できる大会を工夫して開催している。

生徒の主体的な部活動経営には賛同できる、が

- ・大会数や活動の集大成として中体連主催の大会があるため、よりよい成績を収めることが目的となる現実となっている。
- ・活動時間が少なく、もっとやりたい子の活動の場となっていない。

### (2) 地域のスポーツ環境では

- ・部活動に依らない志向に応じた選択が可能な場を選べるのがよい(剣道は、地域に幅広い環境)。多種目に応えうる環境が必要。
- ・総合型地域スポーツクラブ設立や協会との連携が不可欠に。
- ・ジュニア期を一体としたスポーツ環境の捉えていく(小学生期より競技性が優先される傾向はないか)。

### (3) 清水先生からは

競技人口の減少や志向性の課題は、一人一種目のみをやることをよしとする思想からくるもの。複数種目ができる環境やシーズン制へ移行することで解決できる。現在の大会の在り方も部活動改革とともに進める必要がある。大会そのものもシーズン制へ移行すべきこと。

スポーツ人口が減っている中で、競技団体同士で取り合っている。年間を通して一種目やりたい人、将来プロになりたい人、そうでない人もたくさんいる。様々な子の間口を広げてやる多様性がスポーツ人口を増やすことにつながる。

中体連の主催する大会を変えることができるが、中学生期のスポーツライフを変える分岐点になる。全国大会に繋がる大会が子ども達のニーズを先導(扇動)している。これからは、近くの学校でのリーグ戦、対抗戦中心でいい。当面は中体連が無視できないから、付き合う。学校部活動がスポーツ市民を育てるという教育的意味から、大会運営など自治的運営を行う。

中学生期は子どもの教養を広げる時期であることから、スポーツ活動とともに文化的な活動も合わせてできる環境をつくることも必要になる。

総合型地域スポーツクラブが本質的な問題解決になる。教師(学校)と地域でもう一度設立に向けての協議をしていくのも一つ。

別の組織として、スポ少の中学校版。中学校部活とは別組織ではない発展形に教員がかかわっていくことも考えられる。

参加者による話し合いから、次の点について共有しました

### 3 共有事項

様々な課題がある中で、地域の子どもを中心に据え、持続可能な部活動経営と地域のスポーツ環境について、継続して協議していくことが大切である

- (1) 地域・学校・競技団体・教委全体として、生徒数の減少、部活動加入率の低下の現状とその要因を共有する
- (2) 学校部活動経営(部活動設置者)としては、学校教育としての部活動基本方針を示し、生徒・保護者・教員と次の点について(オフィシャルな場で)協議する
  - ・ 部活動の役割として生徒が自治を経験、学ぶ場へ
  - ・ 生徒の多様性を吸収できる単位部活動へ。種目の多様性ではなく、志向の多様性に対して柔軟な経営へ(将来的には、シーズン制や多種目制も)
- (3) 大会等
  - ・ 部活動として出場する中体連の大会やチャンピオンスポーツ大会が、競技志向へと傾いている要因の一つ
  - ・ 学校部活動改革には、これら大会自体の精選や規程改革は不可欠である
  - ・ しかし、上記大会が存在する現状では、既存の大会は学校の基本方針に従って選択的に参加していくことでよいか
- (4) 地域のスポーツ環境
  - ・ ジュニア期を通しての環境の在り方を共有(スポ少、関係団体など)
  - ・ 多種目、多志向に応えうる場、広域的な連携も
  - ・ 競技力育成選手強化は、競技団体が担う仕組み
  - ・ 総合型地域スポーツクラブが選択肢
- (5) 教育委員会は、方針の大枠や地域の既存のスポーツ環境を見直す。近隣市町村と連携も必要となってくる

### 4 今後に向けて

中学生期のスポーツ活動について取り組んでいくこと

- (1) ジュニア期のスポーツ活動の方向性をさらに一致させる(学校ですること・地域ですること・協会がすること)  
飯伊中学生期のスポーツ活動検討委員会の開催(地域・学校・協会・団体と協議する場)  
市町村間での連携(例: 飯田市全市型 SC への乗り入れ等)  
地域部活動にむけての情報提供・情報交換
- (2) 学校教育活動として、学校職員だからできる(強みを生かす)部活動にしていくこと  
教育活動全般や教科(保健体育科)学習を生かし、限られた時間の中でより主体性や自治体験を通じた学びを保障する経営体制をつくる  
教育の専門職として、生徒の自主的、自律的に取り組む力の育成を支援する  
保護者や地域の理解のため、情報を発信し続ける
- (3) そのために、飯田事務所は学校支援・部活動支援をしていきます  
生徒による部活動フォーラム(部活動会議)の開催を通して、生徒主体の部活動運営を行う仕組みづくり  
部活動運営委員会を、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の一環として、広く協議する体制づくり  
部活動経営講習会(中学校職員)やジュニア期のスポーツ活動講演会を開催

